その他

新人看護師の職場適応を支援する取り組み

－ Home Coming Day を行って －

蔵谷範子[1)]　吉村恵美子[1)]　松本佳子[1)]　髙野真由美[1)]

要　旨

本学では、新人看護師 (卒業生) の職場適応を支援するための取り組みの一つとして、平成 22 年度に初めて Home Coming Day を行った。その結果、ほとんどの参加者が『参加の満足度』『今後の参加の意思』について、「とてもよかった」「ぜひ参加したい」と回答した。また、アンケートの感想･意見欄では、「皆に会えて、皆と話せて、話が聞けて良かった、うれしかった、楽しかった」の記載が多くみられ、その他に「また頑張ろうと思えた」「リフレッシュできた、息抜きになった」「もっと他の教員にも会いたい」などの感想・意見があった。

十分な成果を確認できるまでには至らなかったが、同期と集う機会を提供する場としての意味を見出すことができた。その活動を紹介するとともに、看護基礎教育施設が行える新人看護師（卒業生）の支援について考えたので、報告する。

キーワード：新人看護師、職場適応、支援、教育機関

はじめに

平成 22 年 4 月に、「新人看護職の卒後臨床研修が努力義務化」された。新人看護師の離職については、看護界全体でもその原因や対策について継続的に取り組まれている。また、新人看護師の技術不足や事故への不安等の状況への対処として、新たに看護研修制度についても検討されてきている。本学卒業生においても、就職後うまく職場に適応できていない状況や退職に至ったものなど、少数ではあるがいることを伝え聞く。

新卒看護師の支援に関して、大久保[1)]は新卒看護師のストレスに対して「行われているサポートは主に《新卒採用時オリエンテーション》《卒後研修》《プリセプター制度》の３つであった」と報告している。また、日比野ら[2)]は、「卒後支援として大学に期待すること」として、「転職、再就職情報」「卒業生ネットワーク」「看護トピックスに対応した研修」「メンタルサポート」が主な内容であったと報告している。

本学では新人看護師(卒業生)の職場適応を支援するための一つとして、平成 22 年度に初めて Home Coming Day を行った。これは、日比野らの「卒業生ネットワーク」を作る・広げることに繋がる。十分な成果を確認できるまでには至らなかったが、その活動を紹介し、看護基礎教育施設が行える新人看護師(卒業生)の支援について考えたので、報告する。

Ⅰ 「Home Coming Day」の企画

1．Home Coming Day 開催の計画

1）実施目的

本企画の目的は、新人看護師 (卒業生) の職場適応を支援することである。そのため、「Home Coming Day」では「ほっとできる、皆と語り合える、大変だけど頑張ってみようと思える、元気が出る」ことを中心に置き、計画案を検討した。

2）実施時期・時間

実施時期は、新人看護師が体験する困難や離職を考える時期などの文献[3) 4) 5)]を参考に、7 月、10 月の開催を計画した。また、開催時間は、当日日勤者以外は参加できる時間を考え、11 時開始とした。

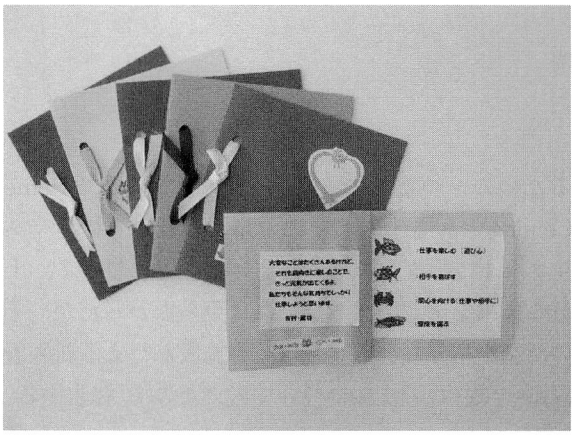
1）川崎市立看護短期大学

3）具体的な実施計画

第1回目は、入職後3ヶ月目にあたる6月に開催案内を通知し、参加者を募った。7月9日(土)に第1回目を計画した。開催場所は、互いの物理的距離を近くできるよう、参加者に比して少し狭い部屋を準備した。開催案内通知は、在学時の連絡先（メーリングリスト）を用いて行った。連絡手段に在学時のメーリングリストを用いることについては、案内通知にその旨記載した。教員にも開催を案内した。

当日は、簡単な部屋の飾り付けを行い、また、飲み物と軽食を準備することとした。進行の大まかな案として、主催者の簡単な挨拶のあと、歓談、近況報告、その後は自由に歓談を行うことを計画した。さらに、お土産としてメッセージカードを用意した。

写真1



平成22年度はじめての実施であり、その効果を知ると共に、今後、本学の果たす卒業生支援の役割について考える資料を得る1つとして、簡単なアンケート調査を計画した。アンケートの内容は、（1）参加して良かったかどうか（4肢択一）（2）今後の開催時に参加しようと思うかどうか(4肢択一)(3)当日の感想や意見、である。

第2回目は、10月30日（土）を予定した。入職後6ヶ月目にあたる9月に開催案内を通知し、参加者を募った。開催案内を通知方法は、1回目と同様の方法の他、前回出席者には1回目に了解を得ている住所やメールに連絡を入れるとともに、連絡先のわかる同級生には連絡してもらうよう依頼した。

具体的な実施計画は、概ね1回目と同様に計画した。

Ⅱ　実施結果

1．第1回目 Home Coming Day（平成22年7月9日）の状況

事前に参加する旨連絡があったのは11名だったが、当日は総勢24名となった。卒業校の所在市、県はもとより、県外からの出席者もあった。また、夜勤明けや夜勤入りでの出席者も複数いた。来校した卒業生たちは、まず玄関フロアに掲示されている同級生たちのそれぞれの職場での写真と近況報告などのメッセージ（当該施設からのもの）にかなりの時間立ち止まり、懐かしんでいた。ある程度の人数が集まったところで会をはじめ、歓談しあった。

近況報告では、それぞれが、自分の今の状況を「覚えることだらけで大変なんですけど毎日楽しく器械出ししています」「子供の泣き声とかで、すごく大変なんですけど、夜勤も始まってもうすぐ一人立ちって言われてます」「1からもう全部初めてだらけなんですけど、なんかちっちゃい子に癒されて、すっごいかわいいです」「結構焦りつつ～、すごくうれしかったことは、摘便はだれにもできないくらい上手っていわれて、何かありましたら私やりますので」といったように、困難な状況とともに成長やポジティブな気持ちを合わせて報告していた。「やめたいとは思いますが、」「常にやめたいって言ってるんですけど、」という報告もあったが、それらの言葉に「これからもがんばりたいと思います」「何かがんばってやってます」と続いていた。また、各自の発言に対し、たとえば前述の「常にやめたいって言ってるんですけど、何かがんばってやってます」には「続けてください」と、また「(予備校で）勉強頑張ってるっていうことで」には「がんばれ」というように参加者から発言者に合いの手が入る場面がいくつか見られた。ほとんどすべての卒業生が「がんばります」という報告をしていた。近況報告の内容を録音すること、および録音内容を実践報告等で発表することについては口頭で了解を得て行った。11時開始し2時間程度を考えていたが、歓談が続いた。最後に記念写真を撮り

お土産を手渡し、在校生や同期生に向けたメッセージカードと連絡先をかいてもらい、14時ころにひとまず閉会した。終了時に、アンケート調査への協力を依頼した。調査にあたっては使用目的・方法と共に、研究協力は各自の自由意志によること、断っても不利益を被ることはないことを口頭及び文書で伝え同意を得た。また、会の中で撮影した写真の使用についても同様に了解を得た。

終了後も複数人が残って歓談し最終的には4時過ぎに終了した。教員は4名（協力教員）が参加した。

写真2

後日、当日の参加者と参加予定者で当日参加できなくなった卒業生に、当日の様子を簡単にまとめた便りと集合写真の写しを郵送した。

2．第2回目 Home Coming Day（平成22年10月30日）の状況

当初の計画に沿って、また1回目の結果を受け、軽食をカレー作りに置き換え、ほぼ同様の内容で計画した。しかし、当日は台風の接近に伴う警報の発令で、急遽開催を中止した。在校生1名を含む4名（卒業生3名は前回出席者）が集まり、11時～4時ころまで歓談した。

開催中止にしたため、アンケート調査は行わなかった。

3．1回目終了後のアンケート結果

1）参加の満足度

21名から回答が得られた（回答率87.5%）。結果は表1のとおりである。20名が「良かった」1名が「まあ良かった」であった。

表1　参加の満足度

問1：今日は参加してどうでしたか？
該当するものに○をつけてください．　n=21

項目	数
とてもよかった	20
まあ良かった	1
あまりよくなかった	0
全くよくなかった	0

2）今後の参加の意思

21名から回答が得られた（回答率87.5%）。結果は表2のとおりである。20名が「ぜひ参加したい」1名が「まあ参加したい」であった。

表2　今後の参加の意思

問2：今後またこのよう会を開催した場合、
参加しようと思われますか？　n=21

項目	数
ぜひ参加したい	20
また参加したい	1
あまり参加したくない	0
全く参加したくない	0

3）参加しての感想・意見

参加しての感想・意見は表3のとおりである。総数28のうち、「楽しかった、よかった」というものが17件あった。そのうち9件は『「皆に会えて」また、「皆と話せて、話が聞けて」良かった、うれしかった、楽しかった』であった。

「また頑張ろうと思えた」が2件、「リフレッシュできた、息抜きになった」が3件あった。「もっと他の教員にも会いたい」が2件あった。

Ⅲ　考察

1．新人看護師（卒業生）の職場適応の支援としてのHome Coming Dayの意味

1回目終了後のアンケート結果では、開催及び再開催に対して、全員が「良かった・まあ良かった」と答えている。感想・意見でも「皆に会えて」「皆と話せて、話が聞けて」良かった、うれしかった、楽しかったとの答えがあった。これらは、同感想・意見にある「また頑張ろうと思えた」「リフレッシュできた、

表 3　参加しての感想・意見

問 3：今日の感想やご意見をお書きください（複数回答）．　　n=18　総数 28

卒業してしまうとなかなかみんなと会う機会がなくなるので久しぶりに会えてとてもうれしかったです． 違う病院に行った子とかに，なかなか会えないので今日久しぶりに会えてよかったです． 久しぶりに皆に会えてうれしかった． 久しぶりにみんなに会えて楽しかったです． 久しぶりに会う人もいたので，すごくなつかしかったです． 久々に学校に来て，先生や友達にあえて学生時代を思い出し楽しかったです． いろいろな話が聞けて楽しかった． 皆と話せたこと，先生の話を聞けたことがよかったです． 同じ病院や同期だから会う人もいるけれど，学校で，あまり会えない人とも会えて近況報告し合えたのでよかったです。 それぞれの仕事の話も聞けて良かったです． とても楽しかったです！！ すっごい楽しかったのでまたやってほしいです♡ 楽しかったです．（2） 今日は楽しかったです． 楽しかったです♡ すごく楽しかったです． 参加して良かったと思いました．
皆の近況も聞けてまた，明日からがんばろうと思えました． 病棟で新卒一人で頼れる人いなくてどうしよう…って感じてたけど，皆がんばってるからまた頑張ろうと思えた．
学生時代に戻った気分になれてリフレッシュできました． 楽しかったし，いいリフレッシュになりました． 息抜きになりました！
盛り上がりましたね♡ おやつや飲み物もありがとうございました☆ またちょこちょこ来ます． もっとたくさんの先生方にお会いできたらよかったです． もっとほかの先生にも会いたくなりました．

息抜きになった」ことに繋がったと思われ、新人看護師(卒業生)の支援として効果があったと考える。神立ら[6]による「新卒看護師が仕事を続ける上で支えになっていること」の調査結果では、回答数の多い順に「同期の支え」「休日のリフレッシュ」などが挙げられている。また、柳田ら[7]の調査でも支えになったこととして「同期との励まし合い」「家族や友人の励まし」が挙げられている。これらの結果と同様の結果がHome Coming Dayの開催から得られており、同期と集う機会を提供する場として意味があったと考える。

また、当該年度の近況報告からは、困難や辛い状況、やめたい気持ちを表明しつつ同時にそれを乗り越えて頑張るという言葉が述べられており、それらを同期が耳にする、同期も同じ気持ちであることの確認ができたことなどは、まさに励まし合い・支えになっていたと考える。

しかし、今回のアンケート調査は回終了直後の1回だけの結果であり、久しぶりに会った同級生同士の反応として、上記結果は当然の結果ともいえる。実施に関しても1回のみの実施であることから、Home Coming Dayの開催が職場適応への効果にまでに繋がったかどうかは十分に確認できておらず、明確な成果を確認するには至らなかった。

2．新人看護師（卒業生）支援に関する今後の課題

唐澤ら[8]は、「就職後1カ月と3カ月の母校からほしい支援の内容に大きな違いはなく、【駆け込み寺のような存在】【自分をよく知る人とのつながりを感じられる機会】（中略）が抽出され、教員や同級生とのつながりに関して支援を求めていた」と述べている。継続的な実施とともに教員の参加等について、より一層拡大していくことは一つの課題と言える。また、新人看護師（卒業生）への連絡方法に関して、十分なルート確保が必要と考える。

おわりに

本学では「あってよかった大学」をスローガンの一つに挙げている。Home Coming Dayの開催は、はじめての試みであったが、新人看護師（卒業生）の職場適応支援の一つとしてその意味や課題を見出すことができた。母校としての支援を考えていくための一助として今後も継続的に、取り組んでいきたい。

引用・参考文献

1）大久保仁司．新卒看護師が入職後3ヶ月までに感じるストレスと望まれる支援．奈良県立医科大学医学部看護学科紀要．Vol.4，2008，p.26-33.

2）日比野直子，野呂千鶴子，山路由実子．看護大学における卒業生サポートネットワークの構築を目指した卒後動向の把握および支援ニーズに関する研究．保健師ジャーナル．Vol.65，no.8，2009，p.676-682.

3）西田朋子．就職3ヶ月目の看護師が体験する困難と必要とする支援．日本赤十字看護大学紀要．Vol.20，2006，p.21-31.

4）唐澤由美子他．就職後1カ月と3カ月に新人看護者が感じる職務上の困難とほしい支援．長野県立看護大学紀要．Vol.10，2008，p.79-87.

5）柳田美喜子他．新卒看護師の早期離職防止を勘案した教育・支援体制の検討　A病院における調査結果から．第38回日本看護学会論文集－看護管理－．2007，p.318-320.

6）神立陽子，上野雅英，池田優子．公的病院における新卒看護師の職業性ストレスと離職願望との関連性．第41回日本看護学会論文集－看護管理－．2010，p.294-297.

7）前掲書5）p.319.

8）前掲書4）p.83.